

第2章 幸福実感指標の現状

この第2章では、「みえ県民力ビジョン」において設定した16の幸福実感指標に基づき質問した「地域や社会の状況についての実感」について、属性ごとのクロス集計、4年間の推移等による分析を行いました。

第1節 16の幸福実感指標の結果概要

1 幸福実感指標

幸福実感指標は「みえ県民力ビジョン行動計画」において、16の政策分野ごとに設定したもので、県民の皆さん一人ひとりが生活している中で感じる政策分野ごとの実感の推移を調べ、全体としての幸福実感を把握するための指標です。

幸福実感指標とそれに関連する県の政策分野は以下のとおりです。

問2	幸福実感指標	関連する政策分野
(1)	災害等の危機への備えが進んでいると感じる県民の割合	危機管理
(2)	必要な医療サービスが利用できていると感じる県民の割合	命を守る
(3)	犯罪や事故が少なく、安全に暮らせていると感じる県民の割合	暮らしを守る
(4)	必要な福祉サービスが利用できていると感じる県民の割合	共生の福祉社会
(5)	身近な自然や環境を守る取組が広がっていると感じる県民の割合	環境を守る持続可能な社会
(6)	一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できていると感じる県民の割合	人権の尊重と多様性を認め合う社会
(7)	子どものためになる教育が行われていると感じる県民の割合	教育の充実
(8)	地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じる県民の割合	子どもの育ちと子育て
(9)	スポーツを通じて夢や感動が育まれていると感じる県民の割合	スポーツの推進
(10)	自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じる県民の割合	地域との連携
(11)	文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができると感じる県民の割合	文化と学び
(12)	三重県産の農林水産物を買いたいと感じる県民の割合	農林水産業
(13)	県内の産業活動が活発であると感じる県民の割合	強じんて多様な産業
(14)	働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じる県民の割合	雇用の確保
(15)	国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じる県民の割合	世界に開かれた三重
(16)	道路や公共交通機関等が整っていると感じる県民の割合	安心と活力を生み出す基盤

2 全体の状況(図表2-1-1 参照)

16の幸福実感指標についての今回調査結果、前回調査及び第1回調査結果との比較についての概要は次のとおりです。それぞれの項目の詳細については、次節において記載しています。

(1) 今回調査結果の概要

『実感している層』の割合を高い順に見ると、3番目までは次のようになっています。

- (12) 三重県産の農林水産物を買いたい(84.5%)
- (10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい(72.4%)
- (3) 犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている(62.8%)

また、『実感していない層』の割合を高い順に見ると、3番目までは次のようになっています。

- (14) 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている(65.5%)
- (6) 一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている(59.9%)
- (1) 災害等の危機への備えが進んでいる(57.9%)

『実感している層』の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計
 『実感していない層』の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

(2) 前回調査との比較

前回調査時よりも1項目で実感が高く()なっており、4項目で実感が低く()なっています。

『実感している層』の割合の変化の幅が大きい順の3項目は次のとおりです。

- (16) 道路や公共交通機関等が整っている(実感：+2.8ポイント)
- (3) 犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている(実感：+1.3ポイント)
- (1) 災害等の危機への備えが進んでいる(実感：+1.0ポイント)

『実感が高く』・・・今回調査と前回調査との比較で、『実感している層』の割合が増えている、又は『実感していない層』の割合が減っており、統計的に有意な水準の差がある場合(危険率5%未満)

『実感が低く』・・・今回調査と前回調査との比較で、『実感している層』の割合が減っている、又は『実感していない層』の割合が増えしており、統計的に有意な水準の差がある場合(危険率5%未満)

(3) 第1回調査との比較

第1回調査時よりも13項目で実感が高く()なっており、1項目で実感が低く()なっています。

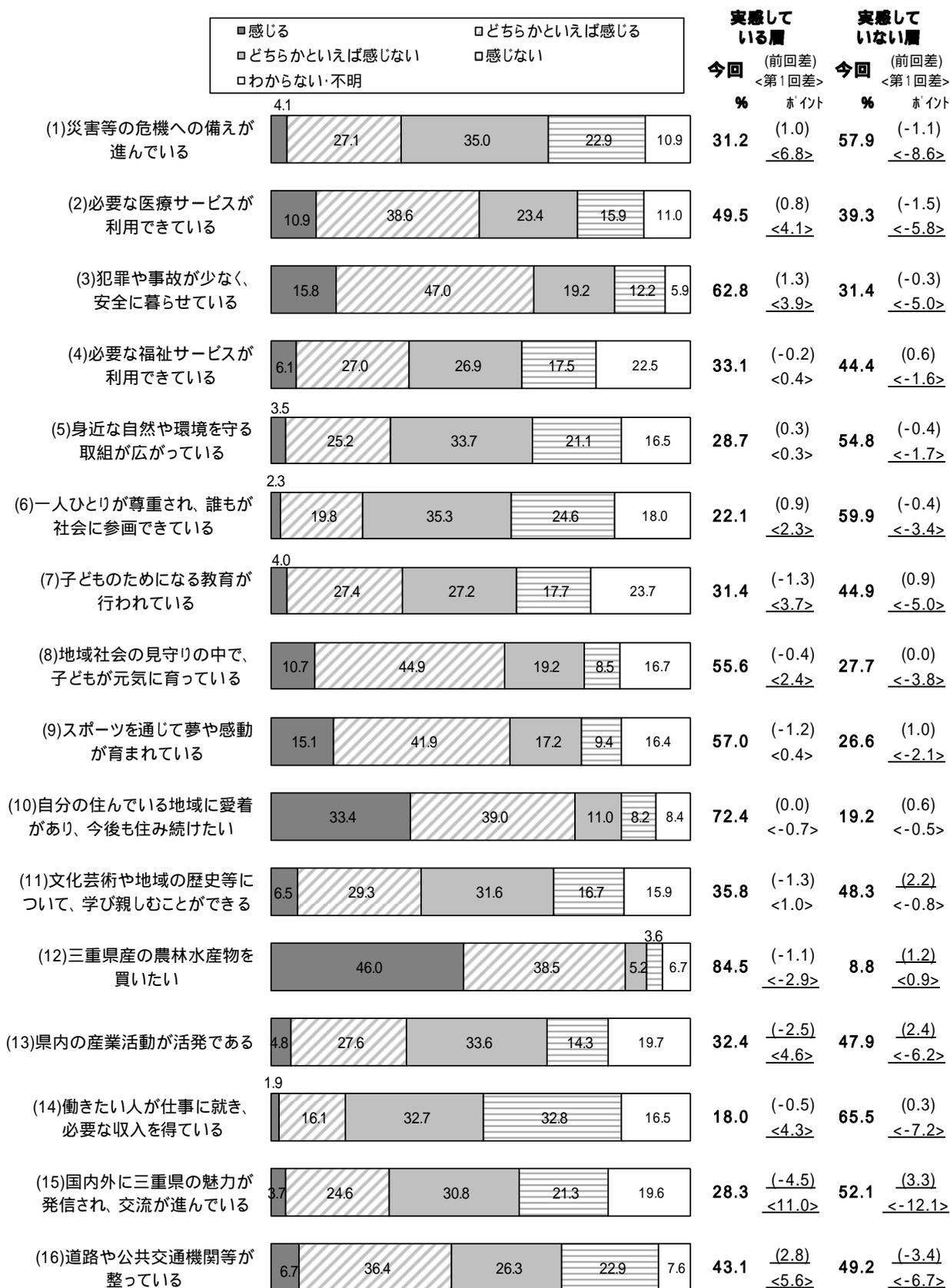
『実感している層』の割合の変化の幅が大きい順の3項目は次のとおりです。

- (15) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる(実感：+11.0ポイント)
- (1) 災害等の危機への備えが進んでいる(実感：+6.8ポイント)
- (16) 道路や公共交通機関等が整っている(実感：+5.6ポイント)

『実感が高く』・・・今回調査と第1回調査との比較で、『実感している層』の割合が増えている、又は『実感していない層』の割合が減っており、統計的に有意な水準の差がある場合(危険率5%未満)

『実感が低く』・・・今回調査と第1回調査との比較で、『実感している層』の割合が減っている、又は『実感していない層』の割合が増えしており、統計的に有意な水準の差がある場合(危険率5%未満)

図表2-1-1 地域や社会の状況についての実感(項目別)



(備考) (前回差)及び<第1回差>の数値に下線を付けているのは、統計的に有意な水準(危険率5%未満)の場合です。

第2節 それぞれの幸福実感指標の現状

1 災害等の危機への備えが進んでいる（問2 - 1）

(1) 今回調査結果の概要（図表2-2-1 参照）

- 『実感している層』は31.2%、『実感していない層』は57.9%です。
16項目中、『実感していない層』が3番目に高くなっています。
- 『実感していない層』が『実感している層』より26.7ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
伊勢志摩、東紀州	北勢
70歳以上	男性
自営・自由業、無職	30歳代、50歳代
離死別	正規職員
単独世帯	三世帯世帯
100～200万円、600～800万円	～100万円、400～600万円

(2) 第1回調査からの推移（図表2-2-2 参照）

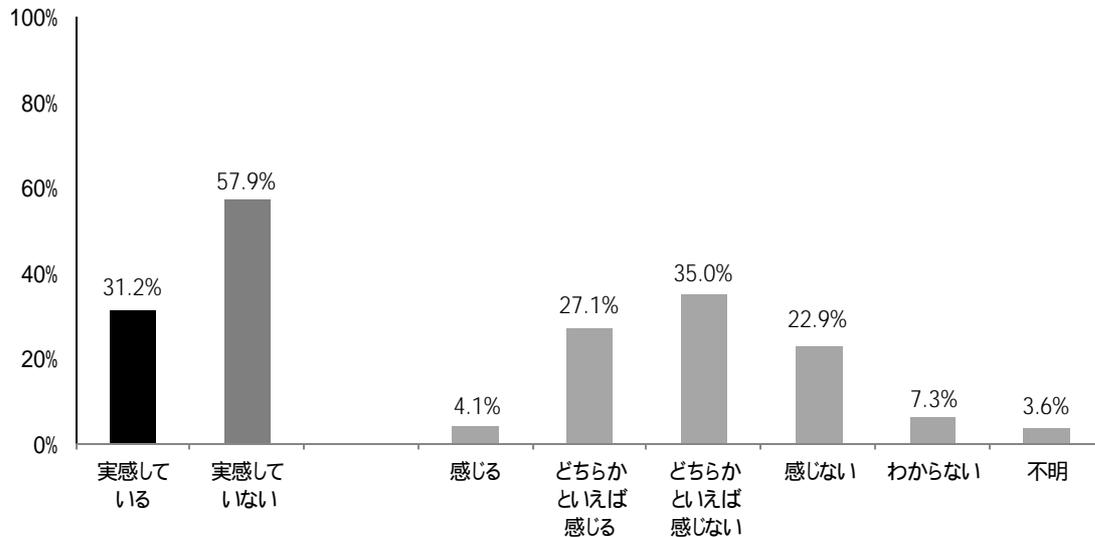
- 全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなり、『実感している層』の割合の増加幅は16の幸福実感指標の中で2番目に高くなっています。
（『実感している層』：+6.8ポイント、『実感していない層』：-8.6ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
40歳代	全地域		
自営、正規	全性別		
未婚	全年齢層		
	自営、正規、パート等、学生		
	主婦、無職		
	全配偶関係		
		～100万円	

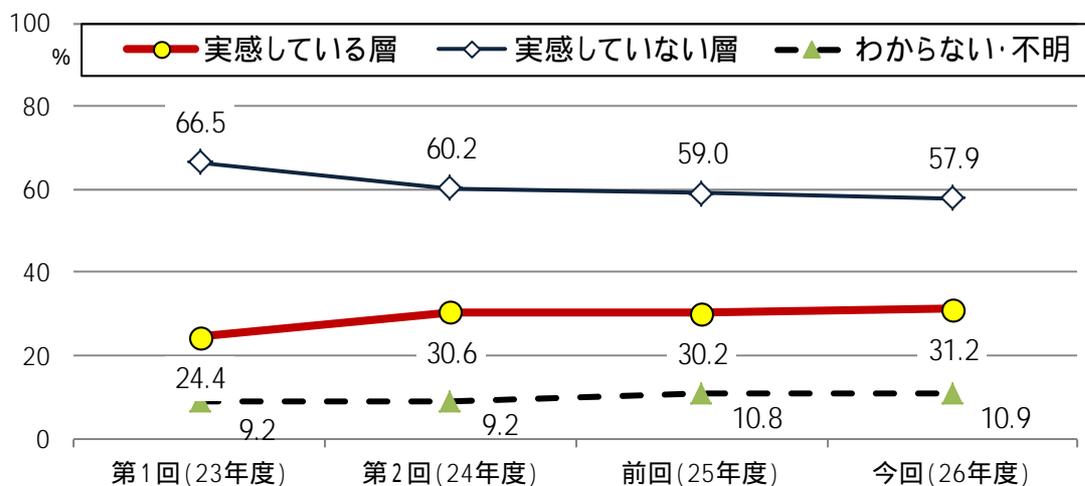
(3) 分析・考察

- ・ 第1回調査よりも実感が高くなっていますが、依然として実感していない層が実感している層の2倍程度となっています。自由記述では「東南海地震による津波が心配」、「津波に備える堤防などの整備が遅れている」などの意見がありました。
- ・ 属性別に見ると、ほとんどの属性で第1回調査よりも実感が高くなっていますが、地域、年齢、職業別などによる傾向の差が見られます。
- ・ 「防災に関する県民意識調査」（平成27年度）においても、東日本大震災後「時間の経過とともに危機意識が薄れつつある」人が56.6%と前年度と比べて3.9%増加しており、危機意識の低下に歯止めがかからないことが懸念されています。
- ・ 県では「自助」「共助」「公助」が一体となって、「防災の日常化」の定着を図ることをめざし、「三重県新地震・津波対策行動計画」に掲げた防災・減災対策を推進していますが、実感している層の割合は平成24年度以降、大きな変化が見られません。引き続き、危機意識の低下を防ぎ、「協創」による地域防災力の向上を図るための取組を行うことが必要と考えられます。

図表2-2-1 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（災害等の危機への備えが進んでいる）



図表2-2-2 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(災害等への危機への備えが進んでいる)



【備考】

- 1 『実感している』…『感じる』と『どちらかといえば感じる』の割合の合計
- 2 『実感していない』…『感じない』と『どちらかといえば感じない』の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)。

2 必要な医療サービスが利用できている（問2 - 2）

(1) 今回調査結果の概要（図表2-2-3参照）

- 『実感している層』は49.5%、『実感していない層』は39.3%です。
- 『実感している層』が『実感していない層』より10.2ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
中南勢	伊賀、伊勢志摩、東紀州
70歳以上 農林水産業、学生、無職	40～50歳代 正規職員、パート・バイト・派遣、その他の職業
その他 300～400万円、1,000万円～	未婚 単独世帯

(2) 第1回調査からの推移（図表2-2-4参照）

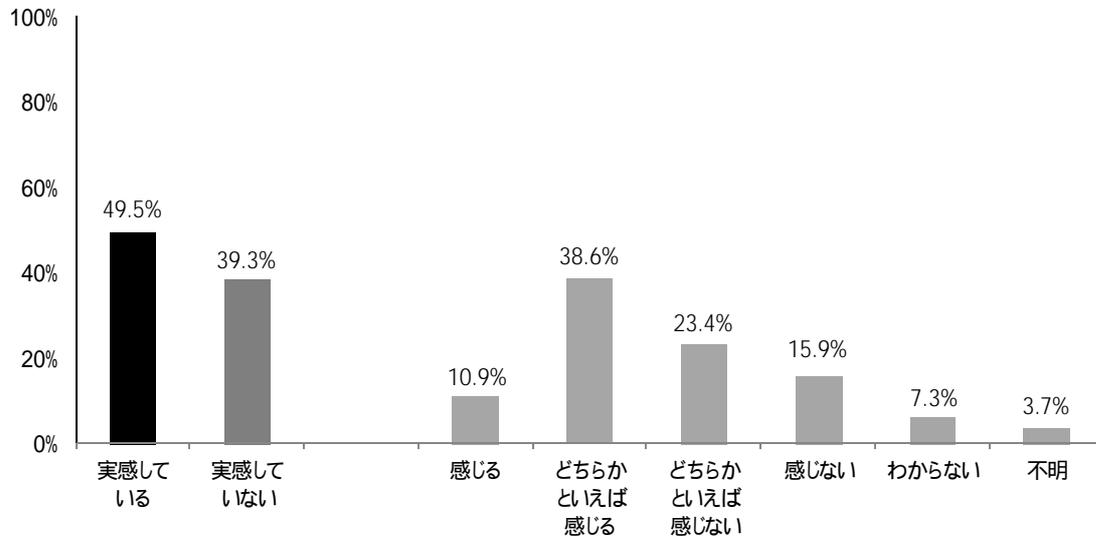
- 全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+4.1ポイント、『実感していない層』：-5.8ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
伊賀	東紀州除く各地域 全性別		
40代	50代を除く各年齢 その他職業を除く各職業		
100～200万円	未婚、有配偶		

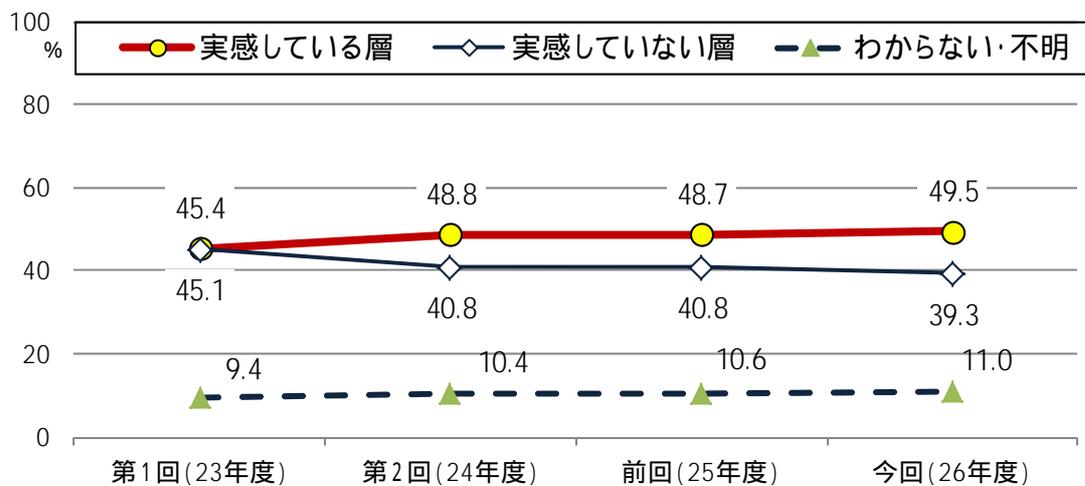
(3) 分析・考察

- ・ 第1回調査よりも実感は高くなっており、第1回調査から今回調査まで継続して実感している層が5割程度となっています。今回調査では実感している層が実感していない層を10.2ポイント上回っています。
- ・ 属性別に見ると、ほとんどの属性で第1回調査よりも実感が高くなっていますが、地域、年齢、職業別などによる差が見られます。
- ・ 年齢別では、40～50歳代は実感している傾向が弱く、70歳以上は強くなっています。また、職業別では、正規職員、パート・バイト・派遣、その他の職業では実感している傾向が弱く、農林水産業、学生、無職では強くなっています。自由記述では「時間外労働が多い」、「有休がとれない」、「病院の都合（日時）に合わせて仕事を休むため、職場トラブルになる」などの意見がありました。
- ・ 地域別では、東紀州地域で特に実感が低くなっていますが、人口10万人当たりの一般病院数が他の地域に比べて少ない（厚生労働省「医療施設調査」、総務省統計局「人口推計」という調査結果もあり、一般病院数の少なさが実感の低さに影響している可能性があります。自由記述では「東紀州地域は病院や介護のための福祉施設が老人の数に比べて少ない」などの意見がありました。引き続き、医療提供体制の充実に取り組む必要があると考えられます。

図表2-2-3 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（必要な医療サービスが利用できている）



図表2-2-4 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)（必要な医療サービスが利用できている）



【備考】

- 1 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 2 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)。

3 犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている（問2 - 3）

(1) 今回調査結果の概要（図表2-2-5参照）

- 『実感している層』は62.8%、『実感していない層』は31.4%です。
16項目中、『実感している層』が3番目に高くなっています。
- 『実感している層』が『実感していない層』より31.4ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
中南勢、伊勢志摩、東紀州	北勢
60歳以上	30歳代
農林水産業	パート・アルバイト派遣
三世帯世帯	
300～400万円、600～800万円、1,000万円～	～100万円

(2) 第1回調査からの推移（図表2-2-6参照）

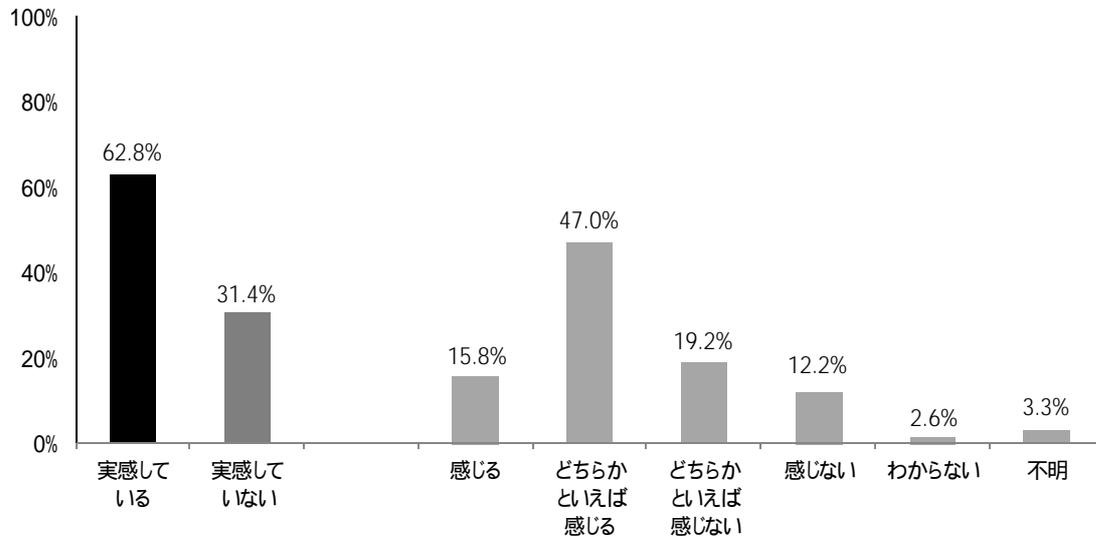
- 全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）
 - ・ 前回調査との比較では、統計的に有意な差が認められません。
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+3.9ポイント、『実感していない層』：-5.0ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
北勢	北勢、中南勢、伊勢志摩	東紀州	東紀州
40代	全性別 40代以上 自営、正規、パート等、主婦、 無職 全配偶関係		
100～200万円		～100万円	

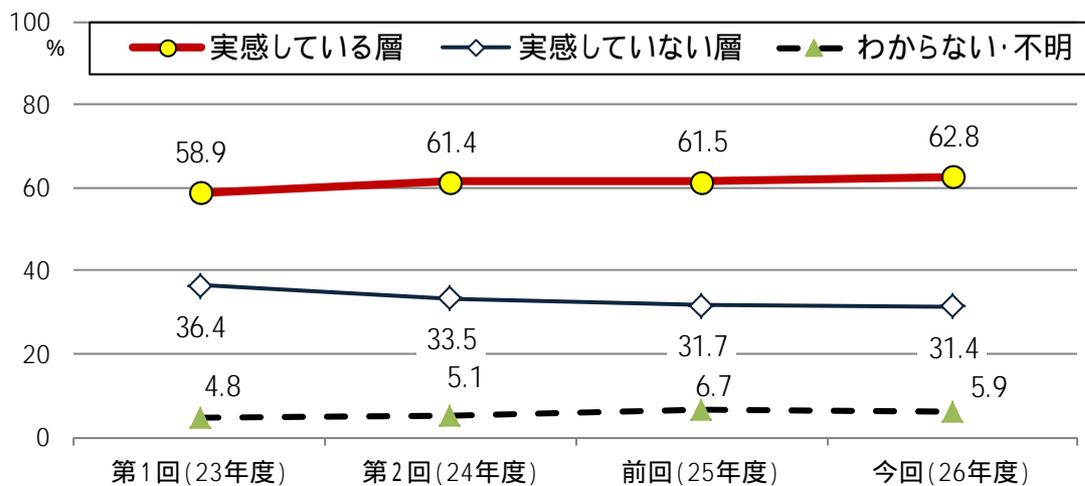
(3) 分析・考察

- ・ 第1回調査から継続して実感している層が実感していない層を上回っています。また、第1回調査から継続して実感している割合が高まっており、今回調査では実感している層が実感していない層の2倍となっています。
- ・ 属性別に見ると、地域、年齢などによる差は見られますが、実感している傾向が弱い属性についても、実感している層が5割を超えています。
- ・ 北勢地域においては、実感が低くなっていますが、北勢地域では人口千人当たりの刑法犯認知件数（三重県警察本部調べ）が他地域に比べて高くなっており、そのことが関係している可能性があります。自由記述では、北勢地域において「朝夕の渋滞や治安の悪さに不安を感じる」、「市街まで自転車で行くための安全な道路がない」、「通学路が危険」などの意見がありました。

図表2-2-5 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（犯罪や事故が少なく、安全に暮らしている）



図表2-2-6 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(犯罪や事故が少なく、安全に暮らしている)



【備考】

- 1 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 2 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)。

4 必要な福祉サービスが利用できる（問2 - 4）

(1) 今回調査結果の概要（図表2-2-7 参照）

- 『実感している層』は33.1%、『実感していない層』は44.4%です。
- 『実感していない層』が『実感している層』より11.3ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
70歳以上 農林水産業、学生、専業主婦、無職 離死別 単独世帯 100～200万円	男性 20～50歳代 正規職員、パート・バイト・派遣、その他の職業 未婚 一世代世帯 400～500万円

(2) 第1回調査からの推移（図表2-2-8 参照）

- 全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。（『実感していない層』：-1.6ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
農林水産業 100～200万円	40代 離死別	東紀州 60代 400～500万円	東紀州

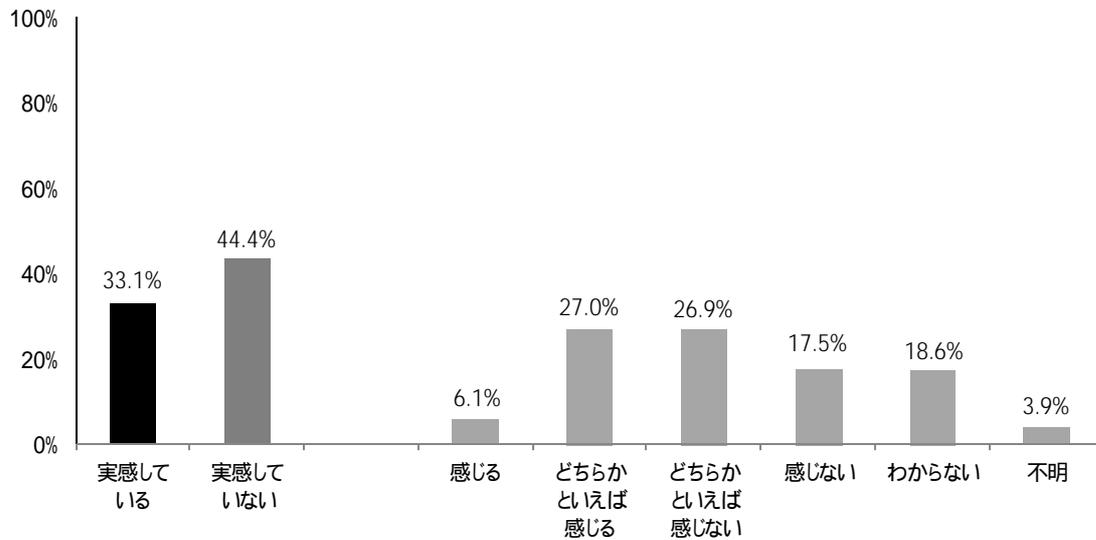
(3) 分析・考察

- ・ 第1回調査よりも実感は高くなっていますが、これまでの4回の調査を通じて、あまり変化は見られず、実感していない層が実感している層を毎回10ポイント程度上回っています。自由記述では「介護施設が少なくて困る」、「年金で入れる施設を増やして欲しい」、「障がい者へのサポートが弱い」などの意見がありました。また、これまでの4回の調査を通じて「わからない・不明」の回答が2割を超えています。
- ・ 属性別に見ると、福祉サービスの受け手が多く含まれると想定される60歳以上、無職では実感している傾向が強くなっています。また、20代、学生、未婚では「わからない・不明」の回答が3割を超えています。
- ・ 今回調査における家族に関する質問項目で「介護が必要な家族がいる」と回答した人は、「介護が必要な家族がいない」と回答した人と比べて実感が高くなっています(1)。一方、「介護が必要な家族がいる」と回答した人のうち、時間の融通が利きにくいと考えられる正規職員やパート・バイト・派遣などで実感が低くなっています(2)。「介護度が重度で在宅の特別養護老人ホームの入所待機者数」は年々減少しているものの、施設への入所を含めた介護サービスの現状に対して満足していない可能性があります。高齢化が進行する中で、引き続き、介護サービスの充実に向けた取組を行う必要があると考えられます。

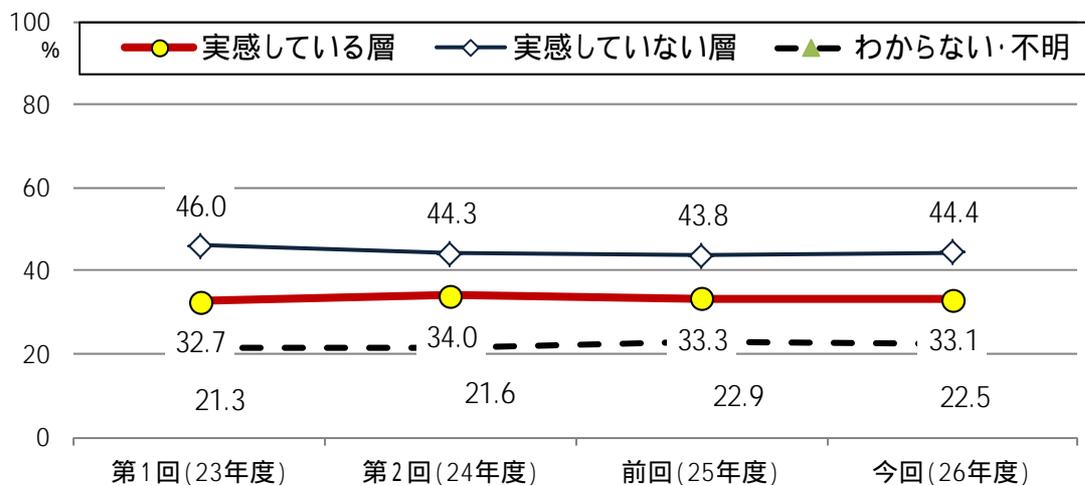
(1) 介護が必要な家族がいる(実感:46.0%、非実感:42.9%)、介護が必要な家族がいない(実感:30.6%、非実感:44.9%)

(2) 正規職員(実感:38.6%、非実感:49.7%)、パート・バイト・派遣(実感:43.1%、非実感:49.2%)

図表 2-2-7 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（必要な福祉サービスが利用できている）



図表 2-2-8 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(必要な福祉サービスが利用できている)



【備考】

- 1 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 2 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)。

5 身近な自然や環境を守る取組が広がっている（問2 - 5）

(1) 今回調査結果の概要（図表2-2-9 参照）

- 『実感している層』は28.7%、『実感していない層』は54.8%です。
- 『実感していない層』が『実感している層』の割合より26.1ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
伊勢志摩 70歳以上 主婦 離死別 単独世帯 ～100万円	男性 20歳代、50歳代 正規職員 未婚 400～500万円、800～1,000万円

(2) 第1回調査からの推移（図表2-2-10 参照）

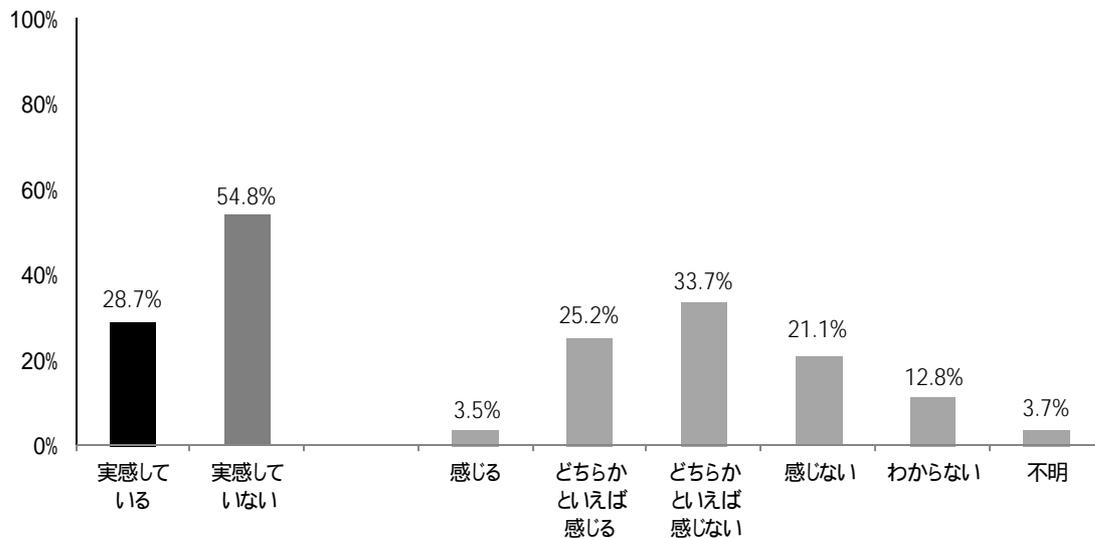
- 全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。（『実感していない層』：-1.7ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
伊勢志摩 200～300万円	伊勢志摩 男性 60代以上 その他の職業	400～500万円	20代 正規 未婚

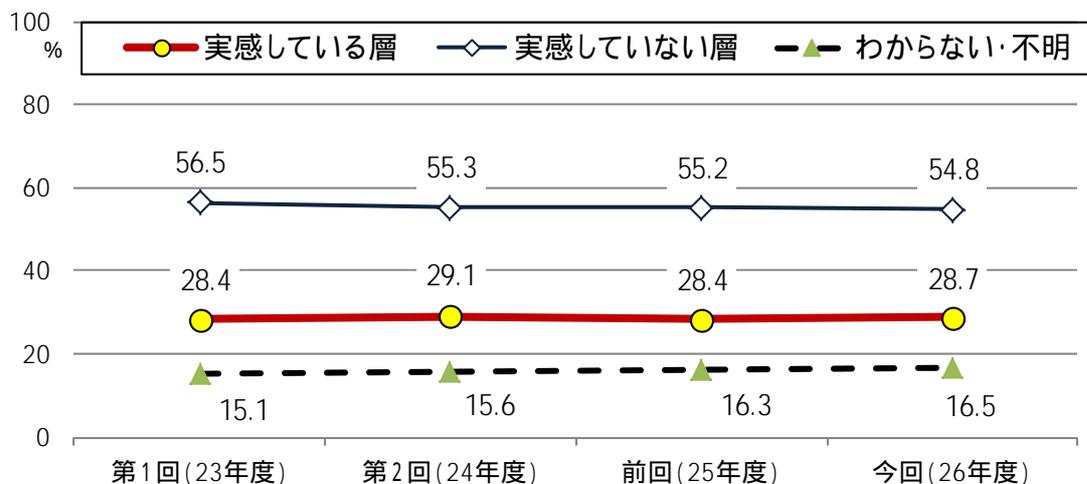
(3) 分析・考察

- ・ 第1回調査よりも実感は高くなっていますが、これまでの4回の調査を通じて、あまり変化は見られず、実感していない層が実感している層の2倍程度となっています。自由記述では「自然がたくさん残っている」という意見がある一方、「沿道にゴミが多い」、「山林、農地の荒廃が進んでいる」、「道路の新設に伴い、たくさんの自然がなくなっていることを感じる。自然を大切にしたい。」などの意見もありました。
- ・ 属性別に見ると、70代以上で実感が高くなっています。今回調査におけるご近所付き合いや地域での活動に関する質問で「地域での活動をしている」と回答した方は年齢層が上がるほど割合が高く、70代が最も高くなっています。自治会などの地域活動の中で清掃など環境保全に繋がる活動を行っている可能性があり、そのことが影響していることが考えられます。
- ・ より多くの県民に、地域における環境保全に繋がる活動に参加していただけるよう、身近な環境や自然を守る取組に参加しやすい仕組みづくりなどを進める必要があると考えられます。

図表 2-2-9 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（身近な自然や環境を守る取組が広がっている）



図表 2-2-10 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(身近な自然や環境を守る取組が広がっている)



【備考】

- 1 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 2 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)。

6 一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている（問2 - 6）

(1) 今回調査結果の概要（図表2-2-11 参照）

- 『実感している層』は22.1%、『実感していない層』は59.9%です。
16項目中、『実感している層』が2番目に低くなっています。
16項目中、『実感していない層』の割合が2番目に高くなっています。
- 『実感していない層』が『実感している層』より37.8ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
男性 70歳以上 農林水産業、学生、無職 離死別 単独世帯 1,000万円～	女性 30歳代、50～60歳代 正規職員、パート・アルバイト派遣 未婚 400～500万円、800～1,000万円

(2) 第1回調査からの推移（図表2-2-12 参照）

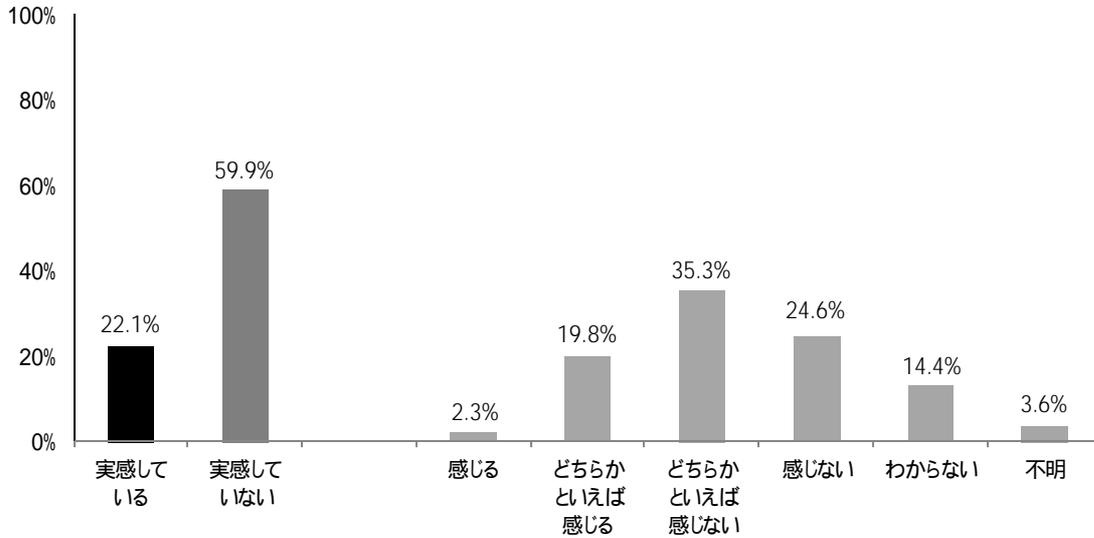
- 全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+2.3ポイント、『実感していない層』：-3.4ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
中南勢 男性 300～400万円、600～800万円	北勢、中南勢 男性 40代 正規職員 未婚、有配偶	400～500万円	

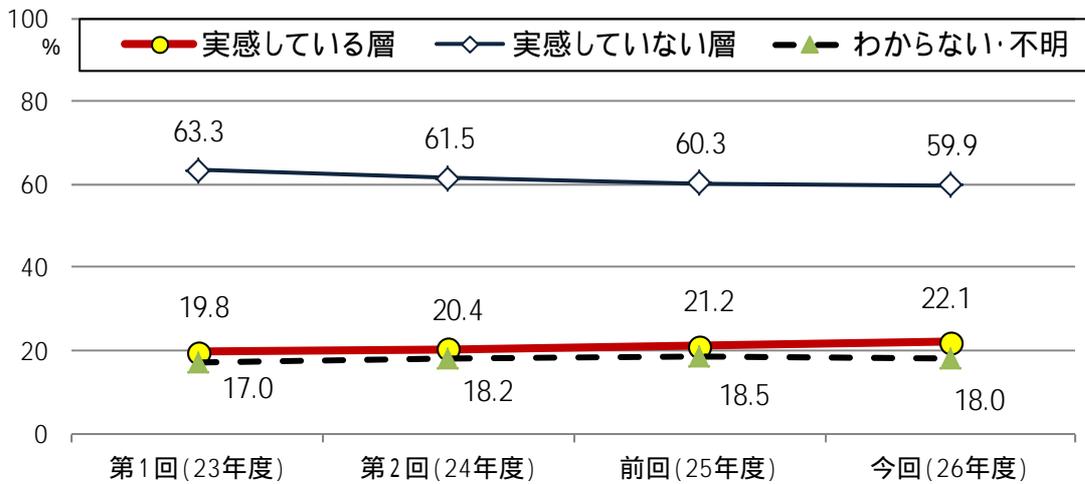
(3) 分析・考察

- ・ 第1回調査から継続して実感していない層が実感している層を上回り、これまでの4回の調査を通じて、実感していない層と実感している層の差は40ポイント程度となっていますが、その差は徐々に小さくなっています。
- ・ 第1回調査からの推移を属性別に見ると、世帯収入以外の属性では、実感が低くなっている属性はありません。
- ・ 第2回調査から継続して16項目中実感している層が2番目に低く、実感していない層が2番目に高くなっていますが、着実に実感は高くなっています。
- ・ 自由記述では「女性が働きやすい職場をつくってほしい」、「自治会など地域の組織での男女差別が激しい」などの意見もあることから、企業等における女性の職域拡大や活躍できる環境整備の支援、地域活動における女性の参画と活躍を進めるための支援等、今後も継続的な取組が必要と考えられます。

図表2-2-11 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている）



図表2-2-12 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている)



【備考】

- 1 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 2 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)。

7 子どものためになる教育が行われている（問2 - 7）

(1) 今回調査結果の概要（図表2-2-13 参照）

- 『実感している層』は31.4%、『実感していない層』は44.9%です。
- 『実感していない層』が『実感している層』よりも13.5ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
中南勢 女性 40歳代、70歳以上 農林水産業、専業主婦・主夫、無職 有配偶、離死別 単独（非実感層が低い）、二世帯世帯、三世帯（実感層が高い） ～100万円（非実感層が低い）、600万円～	伊賀、東紀州 男性 20歳代、30歳代、50歳代、60歳代 自営業・自由業、正規職員、その他の職業 未婚 単独（実感層が低い）、一世帯、三世帯（非実感層が高い） ～100万円（実感層が低い）、100～200万円、400～500万円

(2) 第1回調査からの推移（図表2-2-14 参照）

- 全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
 （『実感している層』：+3.7ポイント、『実感していない層』：-5.0ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

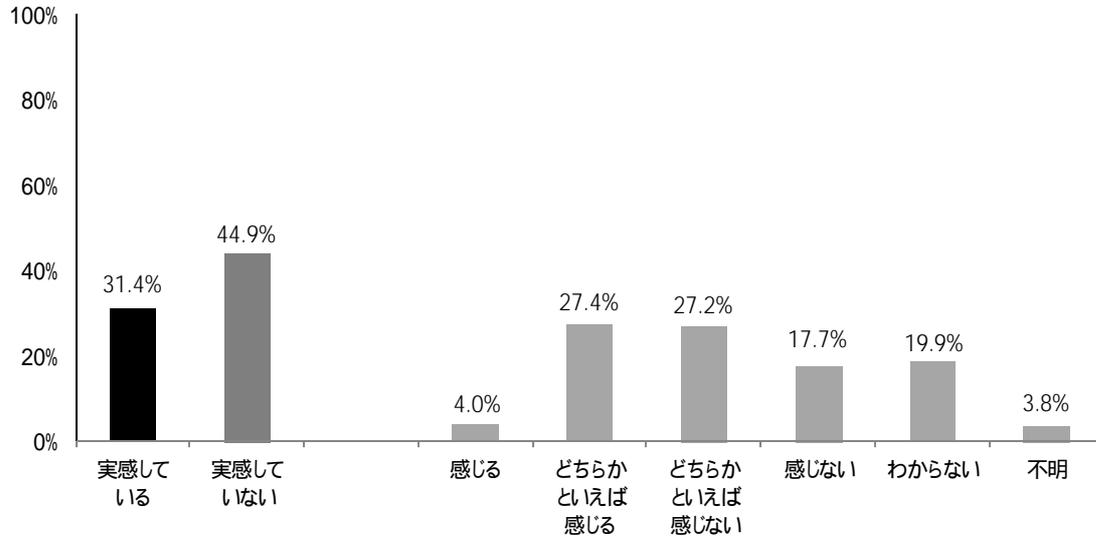
実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
農林水産業	北勢、中南勢、伊勢志摩 全性別 40歳以上 農林水産業、正規職員、パート等、無職 全配偶関係	30歳代 正規職員 未婚 400～500万円	

(3) 分析・考察

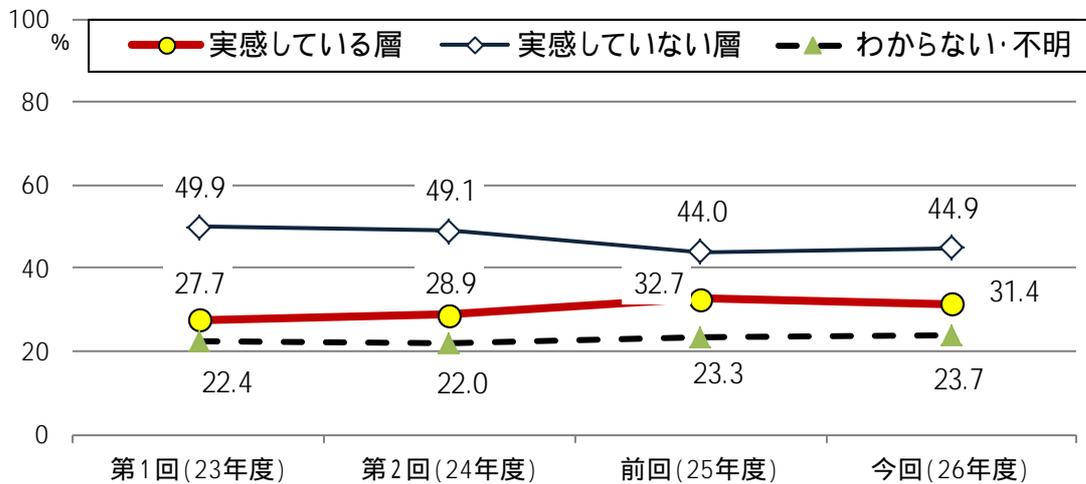
- ・ 第1回調査よりも実感が高くなっていますが、依然として実感していない層が実感している層を上回っています。また、これまでの4回の調査を通じて「わからない・不明」の回答が2割を超えています。
- ・ 子どものいる層の意識を比較したところ(1)、子どもの年齢（未子）が未就学相当、小学生相当、中学生相当、高校生相当のいずれにおいても、県全体より実感が高くなっています。また、子どものいる層の意識を男女別に見ると(2)、女性の方が実感が高くなっています。
- ・ 自由記述では「子どもたちの学力の低さに不安を覚える」、「三重らしい教育、地域の特色を生かした教育を進めてほしい」、「他県に比べて学習施設や文化イベント等が少なく感じる」などの意見もあることから、引き続き、学校・家庭・地域が一体となり、様々な主体による教育への取組を進めることが必要と考えられます。

- (1) 未就学相当(0～6歳)(実感:39.9%、非実感:48.5%)、小学生相当(7～12歳)(実感:46.0%、非実感:48.2%)、中学生相当(13～15歳)(実感:41.2%、非実感:49.2%)、高校生相当(16～18歳)(実感:42.2%、非実感:47.6%)
- (2) 男性(実感:37.7%、非実感:52.4%)、女性(実感:45.5%、非実感:45.3%)

図表 2-2-13 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（子どものためになる教育が行われている）



図表 2-2-14 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(子どものためになる教育が行われている)



【備考】

- 1 『実感している』…『感じる』と『どちらかといえば感じる』の割合の合計
- 2 『実感していない』…『感じない』と『どちらかといえば感じない』の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。

8 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている（問2 - 8）

(1) 今回調査結果の概要（図表2-2-15 参照）

- 『実感している層』は55.6%、『実感していない層』は27.7%です。
- 『実感している層』が『実感していない層』よりも27.9ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
伊勢志摩 女性 70歳以上 農林水産業、専業主婦・主夫、無職 有配偶、離死別 三世帯世帯 ～100万円(非実感層が低い)、200～300万円	男性 30歳代、50歳代 正規職員、その他の職業 未婚 単独世帯、その他 ～100万円(実感層が低い)、1,000万円～

(2) 第1回調査からの推移（図表2-2-16 参照）

- 全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+2.4ポイント、『実感していない層』：-3.8ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

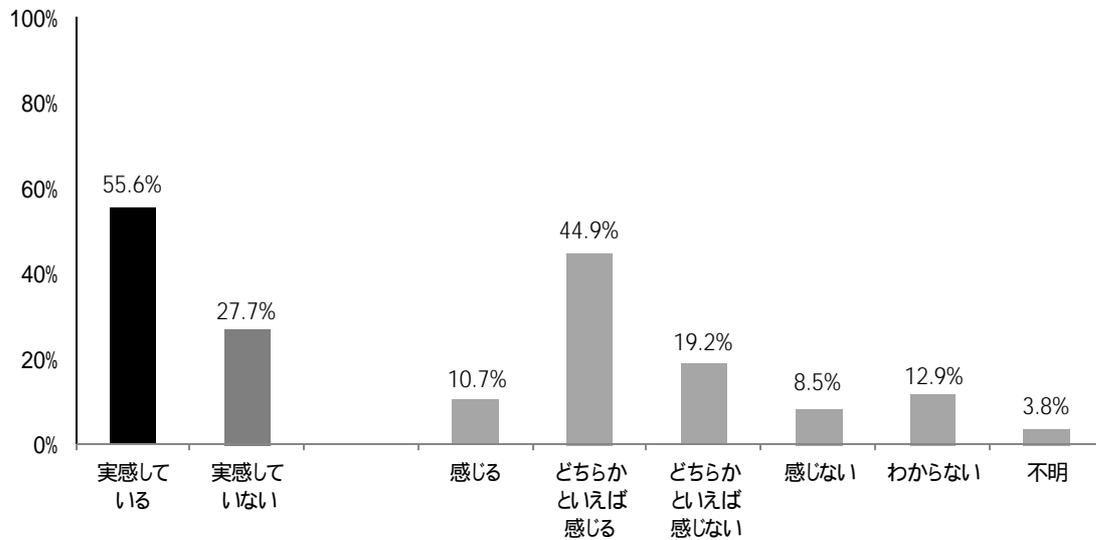
実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
伊勢志摩	北勢、中南勢、伊勢志摩 全性別 40歳以上 自営・自由業、正規職員、 パート・アルバイト派遣、無職 有配偶、離死別	伊賀 その他の職業 400～500万円	

(3) 分析・考察

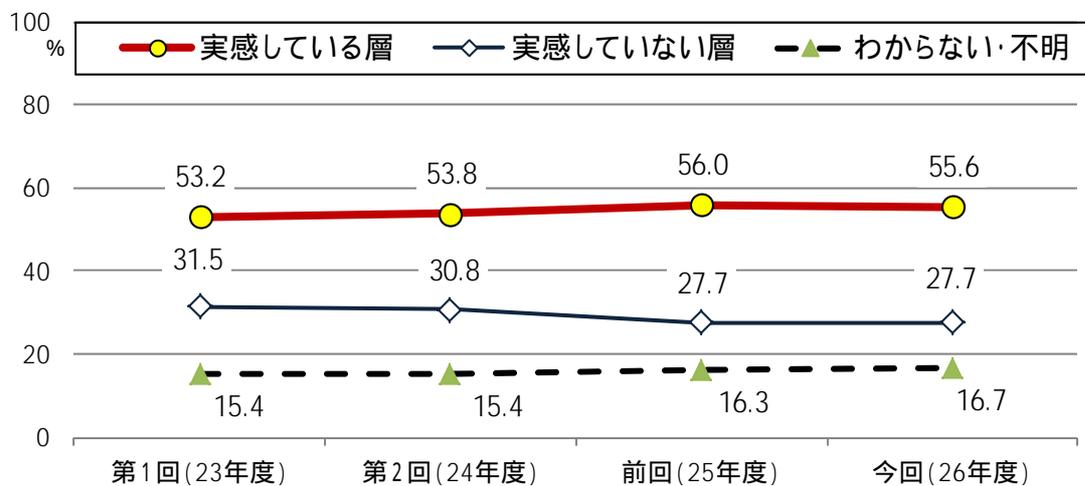
- ・ 第1回調査から継続して実感している層が実感していない層を上回っています。今回調査では実感している層が実感していない層の概ね2倍となっています。
- ・ 属性別に見ると、男性、30歳代、50歳代、正規職員、未婚、単独世帯など、地域社会との関わりがどちらかといえば薄いと想定される層で実感している傾向が相対的に弱くなっている可能性があります。
- ・ 子どものいる層の意識を比較したところ(1)、子どもの年齢(末子)が未就学相当、小学生相当、中学生相当、高校生相当のいずれにおいても、県全体と比べ実感が高くなっています。また、子どものいる層の意識を男女別に見ると(2)、女性の方が実感が高くなっています。
- ・ 自由記述では「学校を開放して地域の人たちがお世話してくれるような学童保育をつくってほしい」、「核家族が増えているが、子育てなど協力をしていただける方が近くにいると安心できる」などの意見があることから、「子どもの育ちを支える視点」が社会全体で共有されるような取組の充実が必要と考えられます。

- (1) 未就学相当(0～6歳) (実感:63.3%、非実感:28.9%) 小学生相当(7～12歳) (実感:67.5%、非実感:27.0%)、
中学生相当(13～15歳) (実感:64.6%、非実感:32.0%) 高校生相当(16～18歳) (実感:59.4%、非実感:31.0%)
- (2) 男性(実感:58.9%、非実感:34.1%) 女性(実感:67.6%、非実感:25.8%)

図表 2-2-15 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている）



図表 2-2-16 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている)



【備考】

- 1 『実感している』…『感じる』と『どちらかといえば感じる』の割合の合計
- 2 『実感していない』…『感じない』と『どちらかといえば感じない』の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)。

9 スポーツを通じて夢や感動が育まれている（問2 - 9）

(1) 今回調査結果の概要（図表2-2-17 参照）

- 『実感している層』は57.0%、『実感していない層』は26.6%です。16項目中、『実感している層』は4番目に高く、『実感していない層』は3番目に低くなっています。
- 『実感している層』が『実感していない層』より30.4ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
女性 20歳代、40歳代、50歳代、70歳以上（非実感層が低い） 自営業・自由業、正規職員（実感層が高い）、パート・バイト・派遣、専業主婦・主夫 有配偶 三世代世帯 400～500万円、600～800万円、1,000万円～	伊賀 男性 70歳以上（非実感層が高い） 正規職員（非実感層が高い）、その他の職業、無職 離死別 単独世帯 ～200万円

(2) 第1回調査からの推移（図表2-2-18 参照）

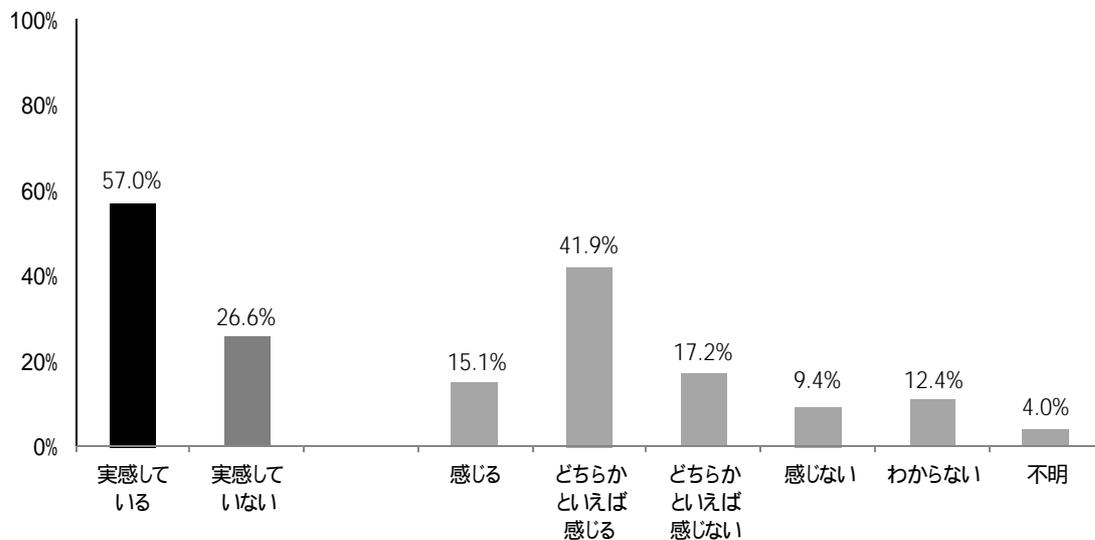
- 全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。（『実感していない層』：-2.1ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
	中南勢 男性 50～60代 専業主婦・主夫 有配偶	伊賀 女性 40歳代 600～800万円	40歳代 その他の職業

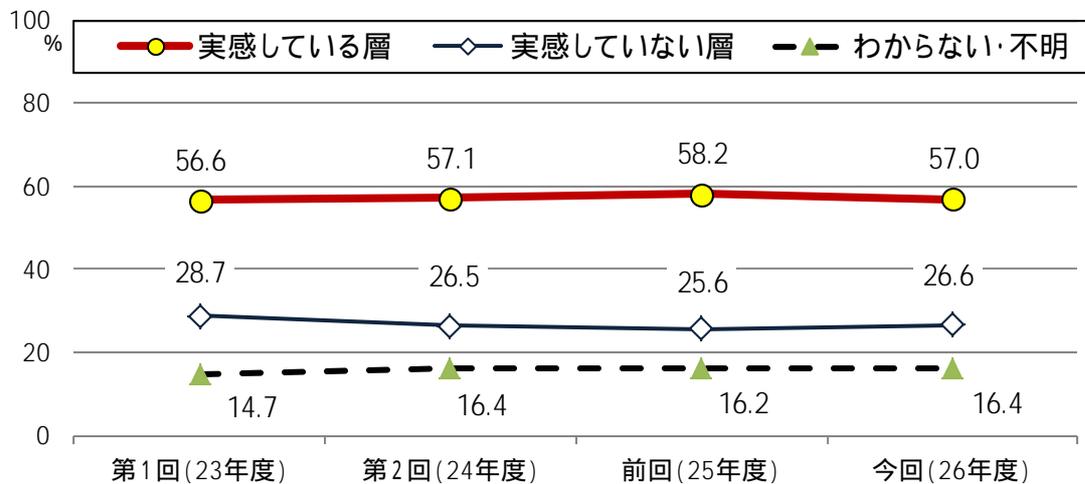
(3) 分析・考察

- ・ 第1回調査から継続して実感している層が実感していない層を上回り、今回調査は第1回調査より実感が高くなっています。これまでの調査における実感している割合の推移と、県が実施した「運動・スポーツ実施と水資源に関するアンケート e - モニターアンケート」の成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率の推移は、概ね同じ傾向となっています。
- ・ 属性別に見ると、他の実感指標とは異なり、若年層で実感している傾向が強く、実感している層は県全体の57.0%に対し、20歳代では62.9%、学生では65.1%となっています。
- ・ 「運動・スポーツ実施と水資源に関するアンケート e - モニターアンケート」の成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率は平成25年度の55.5%から平成26年度は52.8%に下がっていることから、実感を高めるためには、特にスポーツを「する」取組を進めることが重要と考えられます。

図表2-2-17 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（スポーツを通じて夢や感動が育まれている）



図表2-2-18 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(スポーツを通じて夢や感動が育まれている)



【備考】

- 1 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 2 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)。

10 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい(問2-10)

(1) 今回調査結果の概要(図表2-2-19参照)

- 『実感している層』は72.4%、『実感していない層』は19.2%です。
16項目中、『実感している層』の割合が2番目に高くなっています。
16項目中、『実感していない層』の割合が2番目に低くなっています。
- 『実感している層』が『実感していない層』よりも53.2ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。(県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目)

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
中南勢 60歳以上 農林水産業、自営業・自由業 有配偶 三世帯世帯 1,000万円～	伊賀 20歳代、40～50歳代 パート・バイト・派遣、その他の職業 未婚 単独世帯 ～100万円

(2) 第1回調査からの推移(図表2-2-20参照)

- 全体結果(統計的に有意な水準で増減があるもの)
 - ・ 前回調査時、第1回調査時との比較では、統計的に有意な差が認められません。
- 属性別の傾向(統計的に有意な水準で増減があるもの)

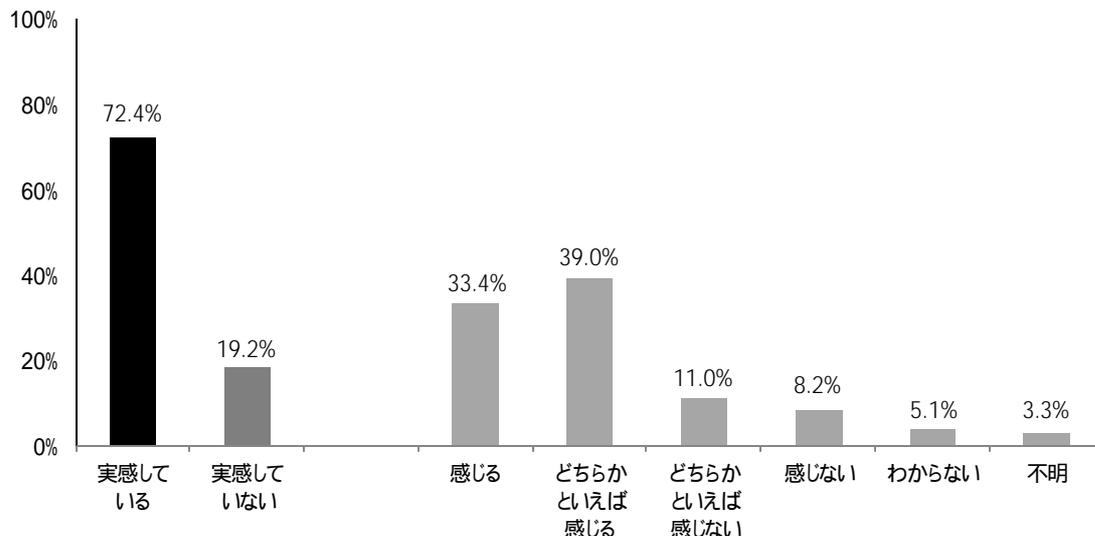
実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
	中南勢 女性	40歳代	男性 20歳代 その他の職業 未婚

(3) 分析・考察

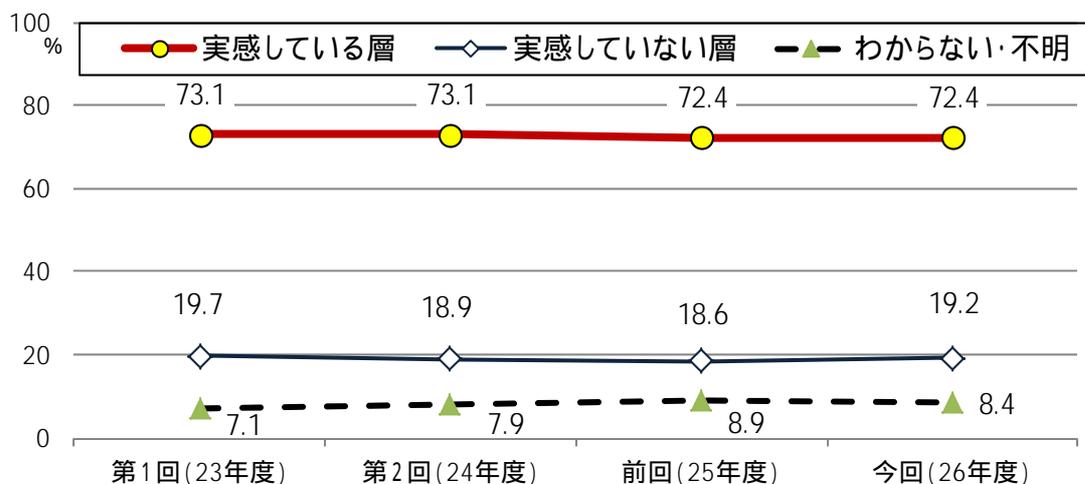
- ・ 第1回調査から継続して実感している層が7割以上で、実感していない層が2割未満となっており、その傾向にあまり変化は見られません。
- ・ 属性別に見ると、すべての属性で実感している割合が6割以上となっています。
- ・ 「近所付き合いや地域での活動の状況」別による分析()では、「している」、「どちらかといえばしている」、「どちらかといえばしていない」、「していない」の順に実感している割合が高く、「している」と「どちらかといえばしている」が県全体の平均よりも実感している割合が高くなっています。
- ・ これらのことから、住みやすい地域づくりに加えて、住民の皆さんによる地域づくりの活動を活性化させる取組も重要と考えられます。

() している(実感:79.6%、非実感:13.4%) どちらかといえばしている(実感:75.9%、非実感:16.9%)、
 どちらかといえばしていない(実感:70.4%、非実感:21.3%) していない(実感:63.2%、非実感:27.1%)

図表 2-2-19 地域や社会の状況についての実感割合(今回調査結果)(自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい)



図表 2-2-20 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい)



【備考】

- 1 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 2 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)。

1.1 文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができる（問2 - 1.1）

(1) 今回調査結果の概要（図表2-2-21 参照）

- 『実感している層』は35.8%、『実感していない層』は48.3%です。
- 『実感していない層』が『実感している層』よりも12.5ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
中南勢 女性 70歳以上 農林水産業、無職 1,000万円～	北勢、東紀州 男性 20～50歳代 正規職員、その他の職業 未婚、離死別 単独世帯 ～100万円、600～800万円

(2) 第1回調査からの推移（図表2-2-22 参照）

- 全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）
 - ・ 前回調査時よりも、実感が低くなっています。（『実感していない層』：+2.2ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

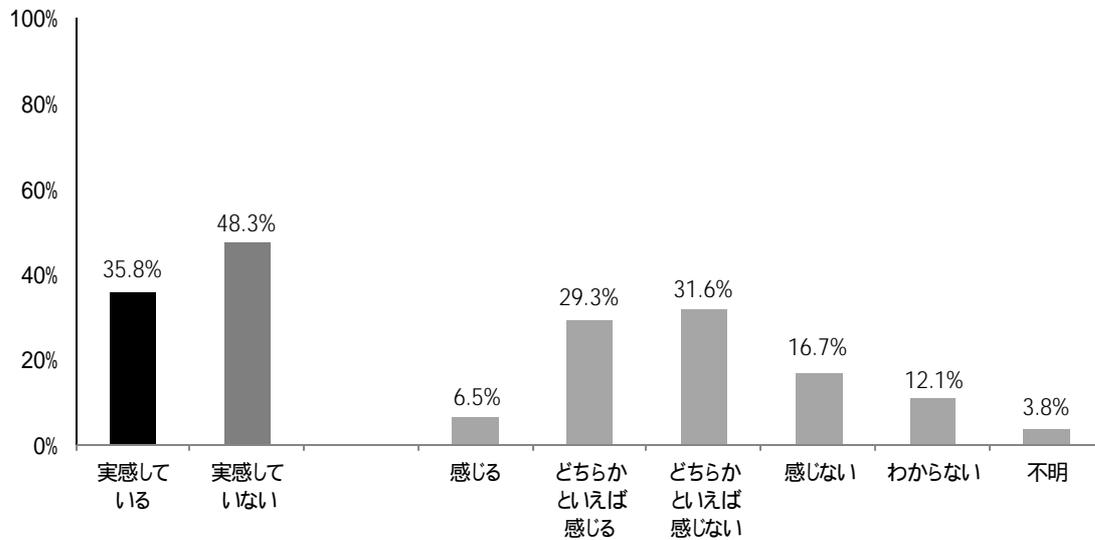
実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
	専業主婦・主夫 有配偶 600～800万円	伊賀、伊勢志摩、東紀州 女性 30歳代、70歳以上 無職 未婚、離死別 ～100万円、200～300万円	未婚

(3) 分析・考察

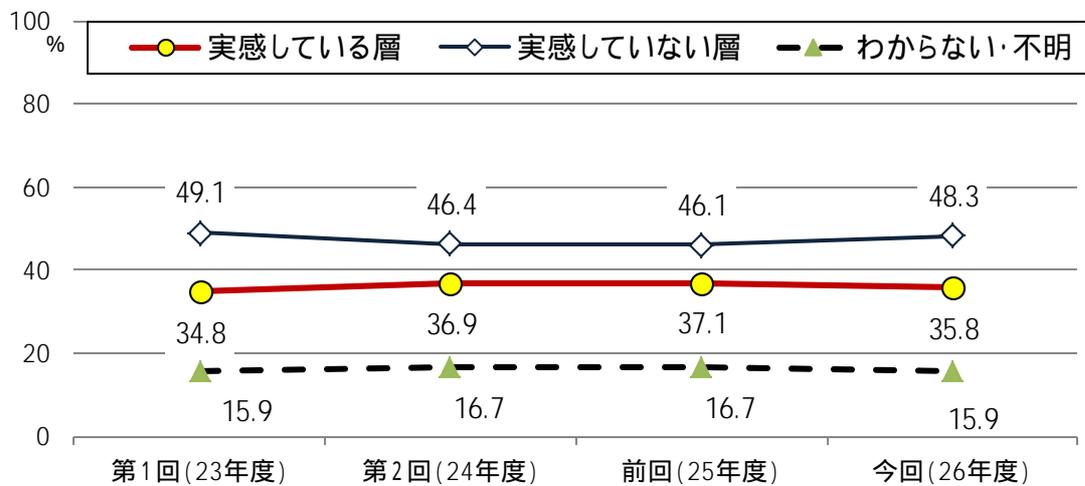
- ・ 第1回調査から前回調査までは実感している割合が年々高くなってきていましたが、今回調査は割合が低くなり、実感している層と実感していない層との差は、前回調査の9ポイントから12.5ポイントに開いています。
- ・ 「近隣の施設へのアクセス（映画館、劇場、美術館等の文化施設）」別による分析（ ）では、「徒歩・自転車で行ける範囲」、「交通機関で行ける範囲」、「行ける範囲にはない」の順に実感している割合が高く、行ける範囲にある場合は県全体の平均よりも実感している割合が高くなっています。自由記述でも「県の主な文化施設が津に集中している。巡回展の開催や交通費の補助など参加しやすくしてほしい」、「文化的なことに触れたいと思っても交通の便がとても悪い」などの意見もあることから、アウトリーチなど文化施設へのアクセスがよくない地域の方にも機会を提供する取り組みも重要と考えられます。
- ・ 県立生涯学習施設の利用者数は、平成25年度の65万1千人から平成26年度は95万4千人に大幅に増加しています。1周年を迎えた三重県総合博物館や日本遺産に認定された斎宮を活用し、引き続き文化芸術や地域の歴史にふれる機会の提供に取り組む必要があると考えられます。

- () 徒歩・自転車で行ける範囲にある（実感:43.6%、非実感:41.7%）
- 交通機関を使えば行ける範囲にある（実感:37.9%、非実感:47.7%）
- 行ける範囲にはない（実感:28.4%、非実感:55.2%）

図表 2-2-21 地域や社会の状況についての実感割合(今回調査結果)(文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができる)



図表 2-2-22 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができる)



【備考】

- 1 『実感している』…『感じる』と『どちらかといえば感じる』の割合の合計
- 2 『実感していない』…『感じない』と『どちらかといえば感じない』の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)。

1.2 三重県産の農林水産物を買いたい(問2-12)

(1) 今回調査結果の概要(図表2-2-23 参照)

- 『実感している層』は84.5%、『実感していない層』は8.8%です。
16項目中、『実感している層』の割合が最も高くなっています。
16項目中、『実感していない層』の割合が最も低くなっています。
- 『実感している層』が『実感していない層』より75.7ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。(県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目)

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
中南勢 女性 40歳代 専業主婦・主夫 有配偶 二世帯世帯、三世帯世帯 300~400万円、500~600万円、700~800万円、1,000万円~	北勢、東紀州 男性 20歳代、50歳代 学生、無職 離死別 単独世帯 ~100万円、200~300万円

(2) 第1回調査からの推移(図表2-2-24 参照)

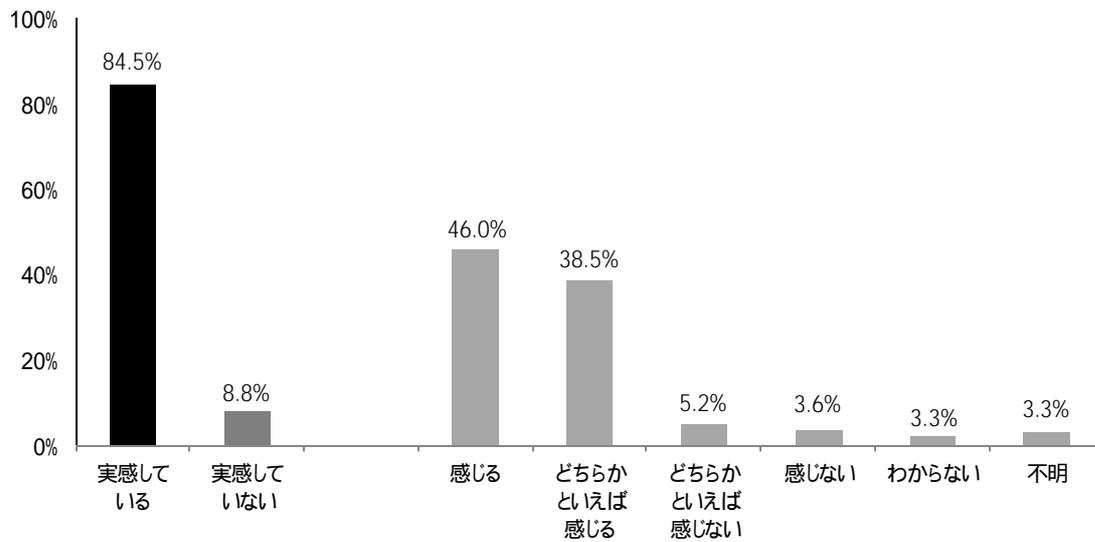
- 全体結果(統計的に有意な水準で増減があるもの)
 - ・ 前回調査時よりも、実感が低くなっています。
(『実感していない層』: +1.2ポイント)
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が低くなっています。
(『実感している層』: -2.9ポイント、『実感していない層』: +0.9ポイント)
- 属性別の傾向(統計的に有意な水準で増減があるもの)

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
		北勢、中南勢、伊勢志摩 女性 40歳代、50歳代 正規職員、パート・アルバイト・派遣、学生 有配偶 200~300万円	中南勢を除く全地域 全性別 20歳代、50歳代 農林水産、自営、正規職員、パート・アルバイト・派遣、学生、専業主婦・主夫 有配偶

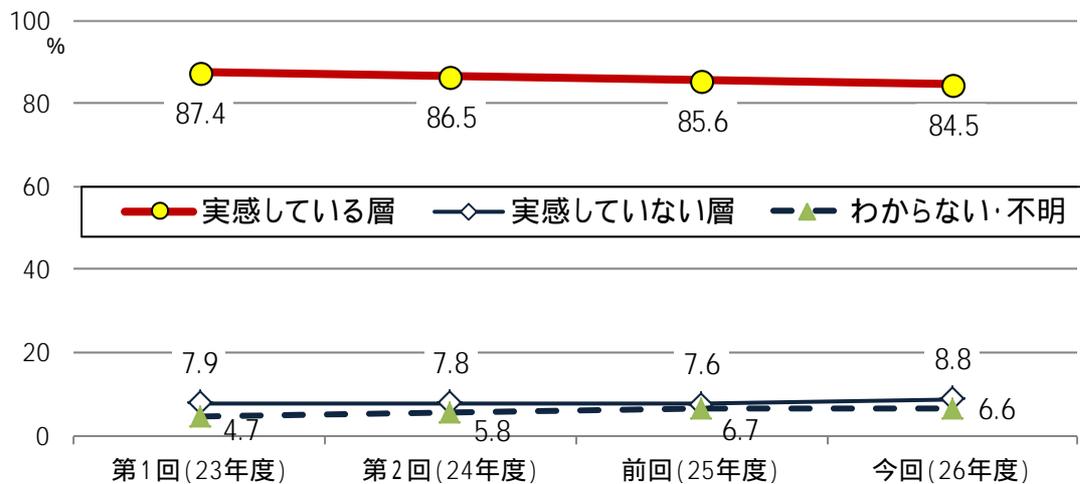
(3) 分析・考察

- ・ 第1回調査から継続して実感している層が8割以上、実感していない層が1割未満で、16項目中で実感している割合が最も高く、実感していない割合が最も低くなっています。一方で、第1回調査以降、徐々に実感が低くなっています。
- ・ 属性別に見ると、実感している割合が8割未満となっている属性は、東紀州地域、学生、単独世帯、世帯収入100万円未満となっています。県が実施した「H26 三重県の食について e-モニターアンケート」では、三重県産の生鮮物に「満足していない・どちらかという満足していない」の回答理由は「入手しやすさ、種類など品揃え」、「価格、またはお値打ち感」の順に多くあり、実感が低い属性について、こうした理由が関係している可能性があります。
- ・ 自由記述では「三重県の強みでもある海産物等をもっと身近なコンビニ、スーパー等にて鮮度のよい状態で手軽に買えるような環境があればよい」などの意見がありました。
- ・ 高い実感を維持向上させていくためにも、引き続き、「三重ブランド」、「みえセレクション」等の取組や「みえ地物一番」等による購買促進に加え、食の安全・安心確保に向けた取組を行っていく必要があると考えられます。

図表2-2-23 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（三重県産の農林水産物を買いたい）



図表2-2-24 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)（三重県産の農林水産物を買いたい）



【備考】

- 1 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 2 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。

1.3 県内の産業活動が活発である（問2 - 13）

(1) 今回調査結果の概要（図表2-2-25 参照）

- 『実感している層』は32.4%、『実感していない層』は47.9%です。
- 『実感していない層』が『実感している層』よりも15.5ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
北勢 女性 70歳以上 専業主婦・主夫、無職 有配偶、離死別 500～600万円、700～800万円、1,000万円～、わからない	伊賀、伊勢志摩、東紀州 男性 30歳代、50歳代 正規職員、その他の職業 未婚 単独世帯 ～100万円、900～1,000万円、わからない

(2) 第1回調査からの推移（図表2-2-26 参照）

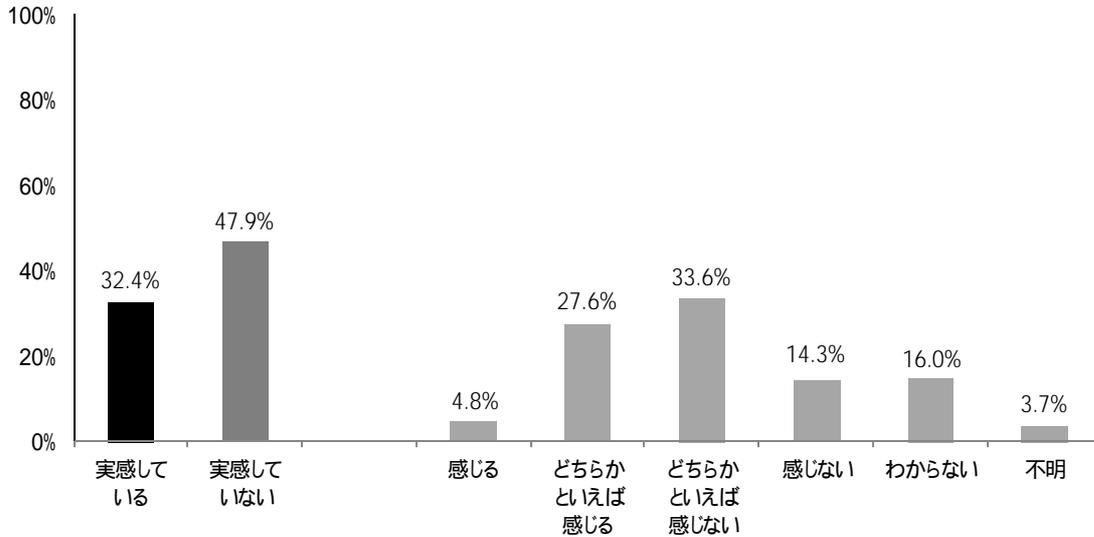
- 全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）
 - ・ 前回調査時よりも、実感が低くなっています。
（『実感している層』：-2.5ポイント、『実感していない層』：+2.4ポイント）
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+4.6ポイント、『実感していない層』：-6.2ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
	伊賀、東紀州除く各地域 全性別 40歳代以上 自営・自由業、正規職員 有配偶、離死別	北勢、伊勢志摩 女性 30歳代、70歳以上 パート・アルバイト・派遣 未婚、有配偶 ～100万円、200～300万円	

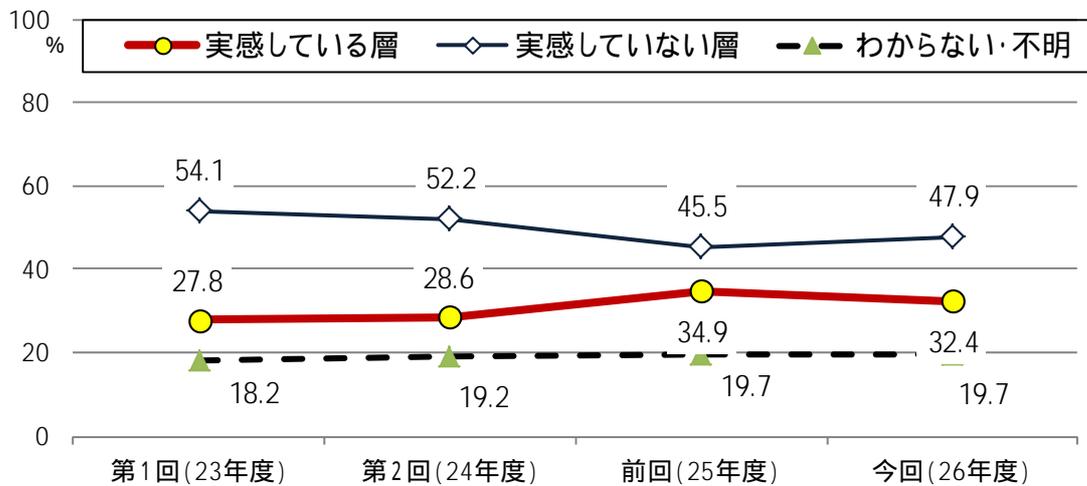
(3) 分析・考察

- ・ 第1回調査よりも実感が高くなっていますが、前回調査と比べると実感が低くなり、依然として実感していない層が実感している層を上回っています。
- ・ 属性別に見ると、北勢地域で実感している傾向が強く、それ以外の地域との実感の差が見られますが、北勢地域においても、前回調査よりは実感が低くなっています。また、第1回調査と比べるとほとんどの属性で実感が高くなっています。
- ・ 三重県の平成25年度の県内総生産（実質）は4年連続で増となり、一人当たり県民所得もリーマンショック後初めて300万円を上回るなど、県内経済の状況を示す指標は順調に推移していますが、それが県民の実感につながっていない状況があります。そこには、例えば「賃金の動き」がほぼ横ばい状態にある（参照：毎月勤労統計調査地方調査結果）等、生活の中で好況を実感しにくい状況が影響している可能性があります。自由記述では「景気の良い時は真っ先に大企業が潤い、悪い時は最後に影響を受ける。中小企業は逆である」などの意見がありました。
- ・ 県内産業を活発化し、それを県民の実感につなげていくため、例えば、航空宇宙産業、ライフサイエンス産業、食関連産業といった今後の成長産業を伸ばしていくことに加えて、地域の経済や暮らしを支え、コミュニティの中核的役割を担っている中小企業・小規模企業に対するきめ細かな支援を引き続き行っていく必要があると考えられます。自由記述では「商店街の活性が乏しく思われる」、「中心商店街の活性化にもっと力を入れてほしい」など、中小・小規模のサービス産業の一層の活性化を望む意見がありました。

図表 2-2-25 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（県内の産業活動が活発である）



図表 2-2-26 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)（県内の産業活動が活発である）



【備考】

- 1 『実感している』…『感じる』と『どちらかといえば感じる』の割合の合計
- 2 『実感していない』…『感じない』と『どちらかといえば感じない』の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)。

1.4 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている（問2 - 1.4）

(1) 今回調査結果の概要（図表2-2-27 参照）

- 『実感している層』は18.0%、『実感していない層』は65.5%です。
16項目中、『実感している層』が最も低くなっています。
16項目中、『実感していない層』が最も高くなっています。
- 『実感していない層』が『実感している層』よりも47.5ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
北勢 70歳以上 農林水産業、正規職員、学生、無職 離死別 単独世帯、三世帯世帯 600万円～	伊勢志摩、東紀州 男性 30～60歳代 自営業、自由業、パート・アルバイト・派遣、その他の職業 一世代世帯、二世帯世帯 ～300万円、400～500万円

(2) 第1回調査からの推移（図表2-2-28 参照）

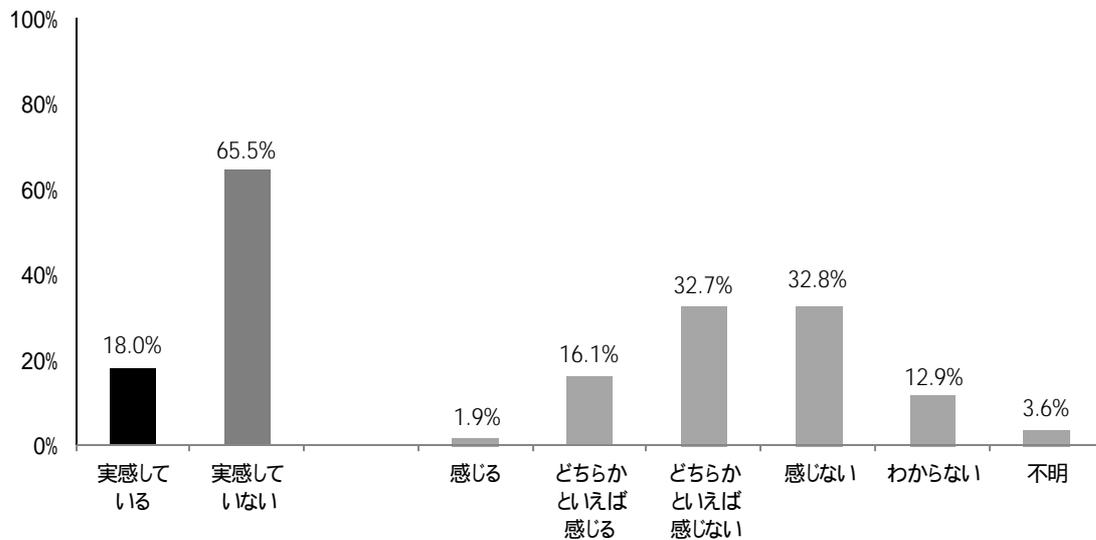
- 全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+4.3ポイント、『実感していない層』：-7.2ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
学生	東紀州除く各地域 全性別 40歳代以上 農林水産業、その他の職業、 学生以外の全ての職業 全配偶関係	パート・アルバイト・派遣 ～100万円、400～500万円	

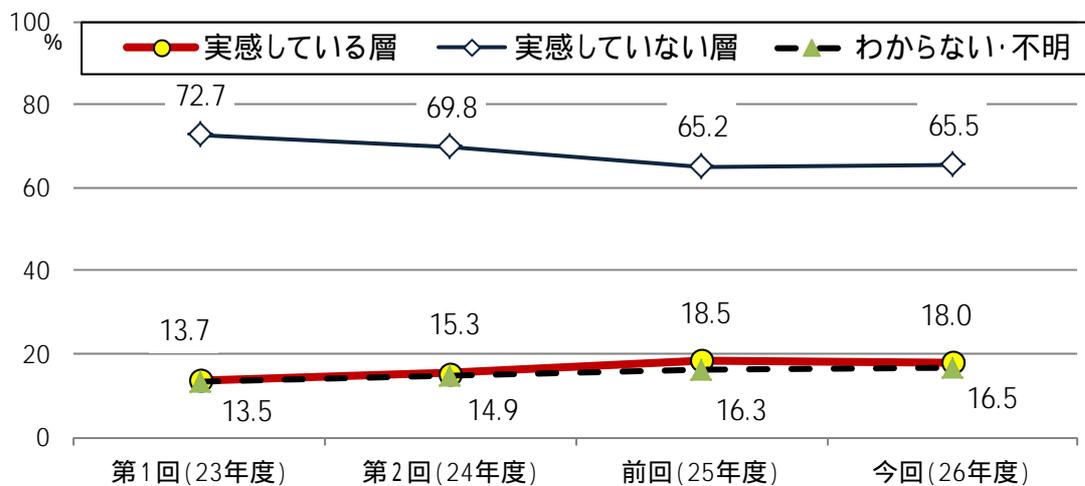
(3) 分析・考察

- ・ 第1回調査よりも実感は高くなっていますが、実感していない層が実感している層の3.5倍以上と大きく上回っています。
- ・ 属性別に見ると、全体と同様に多くの属性で第1回調査よりは実感が高くなっており、学生については、全属性の中で唯一、前回調査よりも高くなっています。一方、地域別では、東紀州地域のみ第1回調査に比べて実感が高くなっていません。
- ・ 学生の実感が前回よりも高くなっていることは、県内の有効求人倍率が高い水準で推移し、学生が新卒求人上好調な印象を持つようになってきていることが影響している可能性があります。
- ・ 有効求人倍率のみを見れば県内の雇用状況は順調と言えますが、例えば、子育て等を経た女性の再就労に課題を残していることなどが、実感を押し下げている可能性があります。自由意見では「女性が働きやすい職場をつくってほしい」、「子どもの急な病気等にも考慮してくれる職場がほしい」、「未満児の保育園受入れが足りず、仕事復帰が困難」などの意見がありました。
- ・ 相対的に収入の少ない属性において実感している傾向が低いことから、「仕事には就けているものの、必要な収入を得ていない」という状況にある人を想定する必要もあり、雇用マッチングに加え、職業訓練や高度人材の育成等、様々な「ひとづくり」の取組が重要であると考えられる。

図表 2-2-27 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている）



図表 2-2-28 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)（働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている）



【備考】

- 1 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 2 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。

1.5 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる（問2 - 15）

(1) 今回調査結果の概要（図表2-2-29 参照）

- 『実感している層』は28.3%、『実感していない層』は52.1%です。
- 『実感していない層』が『実感している層』よりも23.8ポイント高くなっています。
- 16項目中、『実感している層』の割合が3番目に低くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
中南勢、伊勢志摩 女性 70歳以上 無職 離死別 単独世帯 ~200万円、1,000万円~	北勢、伊賀、東紀州 男性 20歳代、30歳代、50歳代 正規職員、学生 未婚 単独世帯、二世帯世帯 ~100万円、400~500万円、800~1,000万円

(2) 第1回調査からの推移（図表2-2-30 参照）

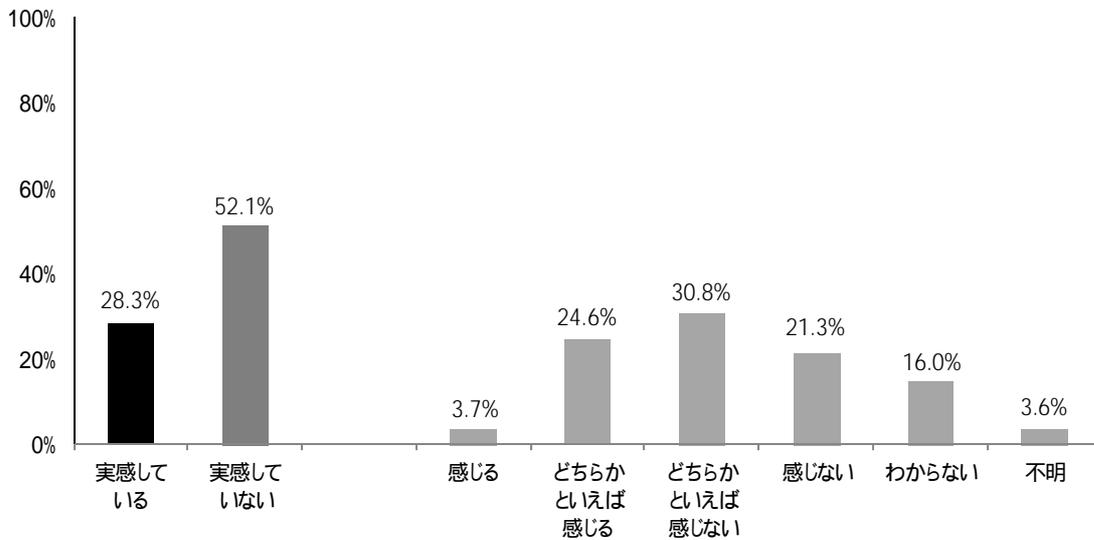
- 全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）
 - ・ 前回調査時よりも、実感が低くなっています。
（『実感している層』： - 4.5ポイント、『実感していない層』： + 3.3ポイント）
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』： + 11.0ポイント、『実感していない層』： - 12.1ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
	全地域 全性別 全年齢層 学生を除く全職業 全配偶関係	北勢、伊勢志摩 全性別 60歳代を除く全年齢 農林水産業、自営・自由業、無職を除く全職業 離死別を除く全配偶関係 ~100万円、400~500万円、 500~600万円、800~1,000万円	

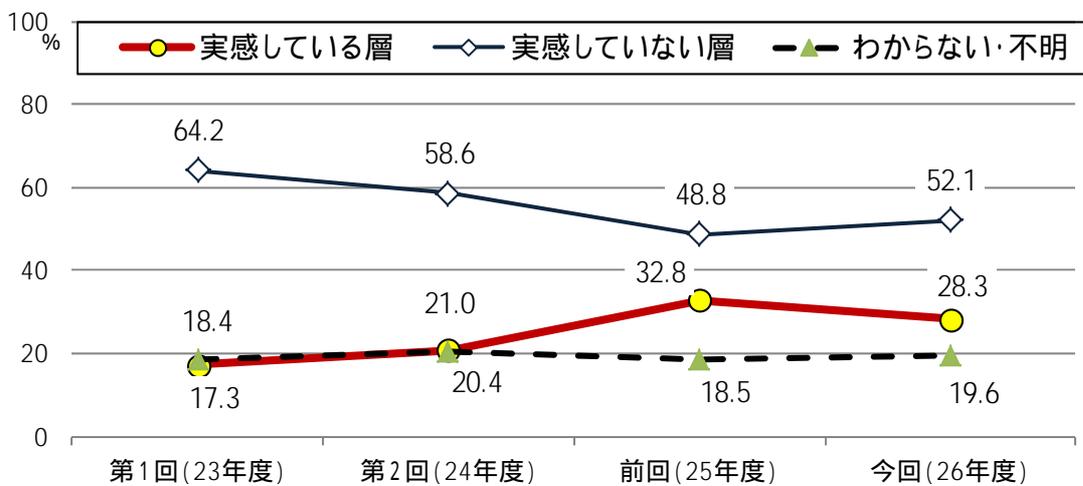
(3) 分析・考察

- ・ 第1回調査よりも実感している層の割合が高くなっていますが、前回調査と比べると実感が低くなり、依然として実感していない層が実感している層を上回っています。自由記述では「他県では三重県をあまり知らない人が多いのがっかりする」、「お伊勢さん」は知っていても、「三重県」は知らないという人が多いと感じる」などの意見がありました。
- ・ 属性別に見ると、第1回調査より、学生を除く全ての属性で実感が高くなっていますが、前回調査よりは、多くの属性で実感が低くなっています。
- ・ 前回調査よりも実感が低くなったことは、神宮式年遷宮の際に三重県に大きな注目が集まり、前回調査時点で大幅に実感が高くなったことの反動とも考えられます。
- ・ 神宮式年遷宮や熊野古道世界遺産登録10周年などの機会を通じて高まった県民の実感を維持し、さらに高めていくため、「伊勢志摩サミット」開催という大きな機会を生かしながら、一過性の盛り上がりにならないための観光誘客や戦略的な広報に引き続き取り組んでいく必要があります。

図表 2-2-29 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる）



図表 2-2-30 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)(国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる)



【備考】

- 1 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 2 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目(危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載)。

1.6 道路や公共交通機関等が整っている（問2 - 16）

(1) 今回調査結果の概要（図表2-2-31 参照）

- 『実感している層』は43.1%、『実感していない層』は49.2%です。
- 『実感していない層』が『実感している層』よりも6.1ポイント高くなっています。
- 特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
北勢、中南勢 70歳以上 農林水産業、自営業・自由業、学生、無職 その他世帯	伊賀、伊勢志摩、東紀州 40歳代、50歳代 正規職員、その他の職業 未婚 単独世帯

(2) 第1回調査からの推移（図表2-2-32 参照）

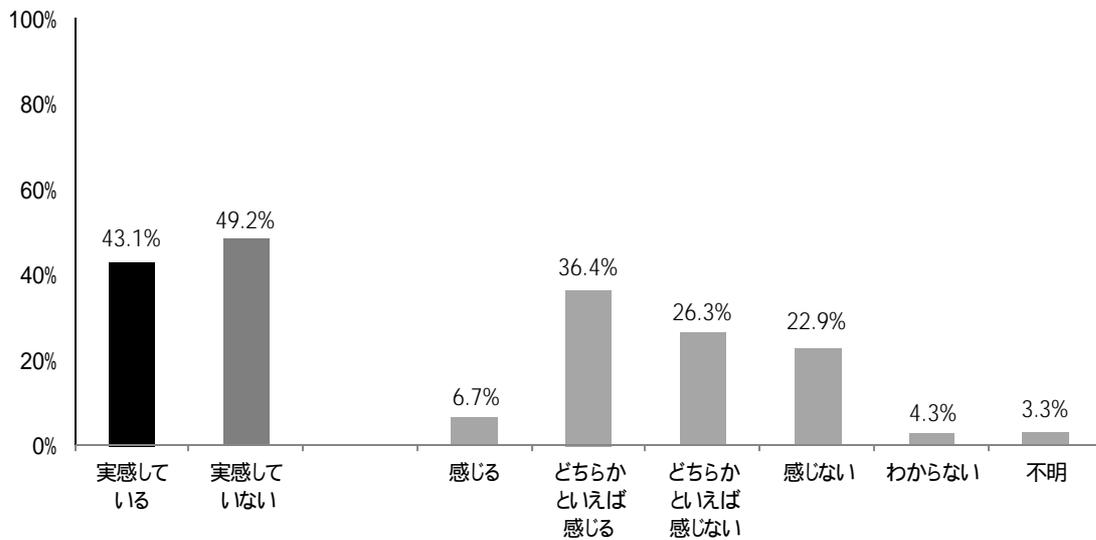
- 全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）
 - ・ 前回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+2.8ポイント、『実感していない層』：-3.4ポイント）
 - ・ 第1回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+5.6ポイント、『実感していない層』：-6.7ポイント）
- 属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
対前回調査	対第1回調査	対前回調査	対第1回調査
北勢、中南勢 男性 50歳代、60歳代 自営・自由業、正規職員、無職 有配偶 200～300万円、500～800万円	全地域 全性別 20歳代を除く全年齢 パート・バイト・派遣、その他の職業を除く全職業 有配偶、離死別		

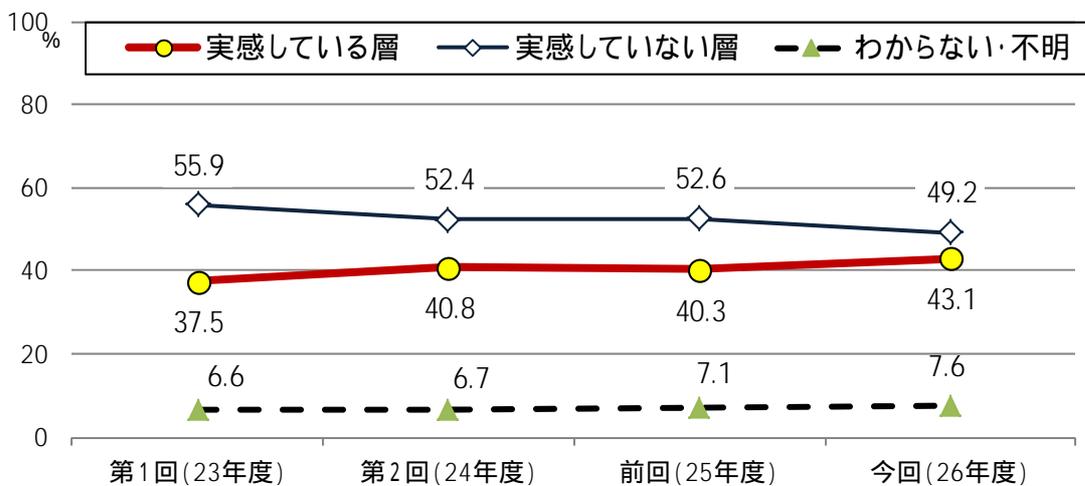
(3) 分析・考察

- ・ これまでの調査を通じて今回調査の実感している割合が最も高くなっています。
- ・ 属性別に見ると、第1回及び前回調査よりも多くの属性で実感が高くなっています。前回調査では、幹線道路の整備が進んだ東紀州地域において特に実感が高まりましたが、今回調査では、北勢及び中南勢地域において前回調査よりも実感が3.7ポイント高くなっています。このことには、中勢バイパスや北勢バイパス、四日市湯の山道路等の整備が進んだことが影響している可能性があります。
- ・ 伊賀地域で実感が高まっておらず、実感している傾向が相対的に弱いことについては、高齢化が進行する中で、移動時に鉄道等の公共交通を利用したいという意識の高まりが影響している可能性もあります。伊賀市の実施した市民アンケート（平成26年1～2月実施）によると、鉄道及びバスを利用しない理由として「運行本数」と答えた人が最も多くなっており、その維持・確保に向けた取組を継続していく必要があります。自由記述では「車に乗れる間はとても住みよいところだが、乗れなくなったら地域活動も社会活動もできなくなる」、「バスの本数が少ないため、高齢者が住みにくくなってきている」という意見がありました。

図表 2-2-31 地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（道路や公共交通機関等が整っている）



図表 2-2-32 地域や社会の状況についての実感割合(第1回調査からの推移)（道路や公共交通機関等が整っている）



【備考】

- 1 『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
- 2 『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
- 3 『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 4 『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 5 『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
- 6 『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。